

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	272400417		
法人名	社会福祉法人鶴松会		
事業所名	グループホーム鶴松園		
所在地 (電話番号)	〒038-3542 青森県北津軽郡鶴田町廻堰字上野尻142番地 (電話) 0173-22-6780		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 10月 19日	評価確定日	平成 20年 11月 18日

【情報提供票より】(平成20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,850 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期7,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	72 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今岡医院、布施病院、鶴田町立中央病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津軽平野が続く田園の中に、特養と併設し建てられている。なによりも素晴らしいと感じたのは、職員と利用者が畑で農作業をしている情景である。その地域で暮らしてきた、昔から行われていた農作業を、職員の見守りの中、生き生きと働いている姿はこの施設に入所されて本当によかったと感じた。収穫物も調査月が10月であったため、さまざまな野菜があふれていた。
また、管理者、職員も介護の経験が長く、落ち着いたさりげない言葉がけや、援助は利用者にとって、一番安楽な状態と思われる。認知症ケアに対する意識も高く、専門知識の習得にも研鑽されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域と連携をとっており、婦人会の方がホーム周辺の草取りのボランティアを行っている。地域との情報交換もしており、地域とのつきあいは自然体で実施されている。同業者との交流を通じた向上については、相互訪問の活動等、より交流する機会を設けサービスの質の向上を図るよう期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価表作成後に職員に回覧し意見を求めている。評価の意義は理解されており、その過程を通じてサービスの質の確保・向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に開催され、関連な会議が運営されている。施設からの情報の提供や出席者からの情報提供もあり、施設のサービスの質の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	家族面会時、ケアプランの意向や事業所に対する、意見・苦情の有無を確認している。遠方の家族には写真も同封し近況を報告している。事業所側から意見・苦情が表出しやすいよう働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の伝統の行事への参加や、地域を巻き込んだ祭りの開催など、日常的な付き合いをしている。地域の一員として高齢者の生活を支援し、家族や地域住民の理解を深めている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域性を的確に捉えており、いま置かれている状況下で、できる限り地域とつながりを持ち続けようとしている。これらのことからより良く生活をするための理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員にとっても理解しやすい理念であり、日々の話しあいの中で個々の援助につなげている。また職員間でも共有している。		
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の伝統行事への参加や地域を巻き込んだ祭りの開催など、日常的な付き合いをしている。特にキャラバンメイトとしてではなく地域の一員として高齢者の生活を支援し、家族や地域住民の理解を深めている。具体例をあげれば近隣の婦人会が事業所周囲の草取りのボランティアにきており、良好な関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価表作成後に職員に回覧し意見を求めており、評価に対する意義は理解はしている。又、評価結果をもとに会議で話し合いをし改善目標を立てている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業計画や外部評価結果など、その他ホームの生活ぶりなどを説明し、運営推進会議で話し合った意見をサービス向上に生かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議は定期的に参加しており、また管理者は行政と連絡、情報交換を行なっている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在利用している方はいないが、年に数回全体会議で権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けており、職員は知識として持っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法に関する指針を作成し、職員は遵守している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前に施設見学を受け入れしている。契約時は管理者がリスクについても十分な説明をし、理解して納得していただいている。制度の変更があるときは書面にて連絡し説明し同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、面会時に健康状態や日々の暮らしぶりを報告をしてる。遠方の家族には写真に撮り送付し書面で近況を報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時、意見を聞き、ケアプランに組み込んでいる。又、運営推進会議にも家族の代表が参加しており、意見・要望・生活支援の様子を公表している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>毎年1名程度の異動はあるが利用者にダメージを与えないよう、ケアの継続に支障がないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は異動になった職員に研修を行うほか、毎年4月に援助内容の軌道修正とスキルアップを目的とした職員全体研修を行っている。又、外部研修参加は年間計画を立て段階に応じて参加し、専門知識の習得に努めている。 毎月開催される職員会議で運営会議で話し合われたことや、研修参加の複命書の報告・説明をし、サービス内容の向上に努めている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は外部研修等で、同席した他事業所と情報交換は行っているが、地域の他法人や同業者との直接的な交流の機会を設けていない。		他事業所の同業者と交流する機会を設け、ネットワークづくりや勉強会等、相互訪問を通じて、日ごろの業務の改善点などの情報交換に努め、サービス水準の向上につながるよう期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の意向を聞きながら徐々に馴染んでいただくよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状態に応じ、家事や畑作業の協働で共に支えあい一緒に過ごしあう関係を構築している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者によっては思いや希望を把握することが困難なこともあり、日々の関わりの中で会話や行動、家族からの情報を得て利用者本位のサービスに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報やセンター方式を活用し、利用者のニーズを基に介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスの開催のみならず、本人や家族の要望や状態の変化に応じて介護計画を見直す為の話し合いがされ、臨機応変に対応がされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外出、外泊、お買い物など柔軟な対応が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、ホーム利用前からの主治医への受診の継続が行われ、支援されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた話し合いは早い段階から家族、主治医と話しあい、方針を決定している。また、併設の特養ホーム・居宅支援事業所等とも連携を密にし、支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿など個人情報に関する記録は目に付かないところで管理されている。利用者の誇りやプライバシーの保護に関してもさりげない気配りをした援助が行なわれていた。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム入居以前からの生活習慣を大切に、日々の暮らしの中で利用者の行動や表情からも見極めをし、その人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に食事をし、お誕生会のメニューや畑の収穫物を利用した手作りの漬物の話題など、楽しい食事時間の共有が出来ている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>温泉を引き、週3回気の合った仲間と楽しく入浴できるよう配慮している。又、希望や体調にあわせ時間帯の変更等、足浴のみにも臨機応変に対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>畑作りや草取りなどの農作業が得意な利用者が多く、ホームの周りに畑を作り収穫物は食材に利用するなど、生活意欲を引き出す支援がされている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>月1回定期的に外出している他、一人ひとりの希望に添った外出の支援がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践について法人全体会議等や事業所ごとに理解、認識しており、尊厳あるケアを実践している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間以外は鍵を掛けない生活を支援している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年1回併設施設と一緒に夜間対応の避難訓練を実施している。消防署、地域の消防団、防災協力隊などの協力体制が得られている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎週体重測定をしており、体重減少の利用者については無理強いすることなく併設施設の栄養士に相談し食事内容を検討している。改善が見られない場合は医師に相談し対処している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>職員はもとより、利用者は家族同意のもと全員インフルエンザ予防接種施行している。感染症予防マニュアルを用意し、日常的に手指の消毒、手洗いの励行に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは季節ごとに花の鉢植えが換えられ、職員は一人ひとりが居心地良く過せるようテレビの位置、ボリューム、ソファ等配置に心配りしている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は利用者の意向で仏壇の持込や、観葉植物など居心地良く過せるよう利用者本位で配置されている。</p>		

 は、重点項目。